

新年への抱負を胸に！

With ambitions for the new year!

— 都市デザイン研忘年会 2012 —

- UD lab year-end party 2012 -



昨年12月12日（水）、鳳明館本館にて行われた、2012年都市デザイン研究室忘年会の様子と、西村幸夫先生による2012年最後の演説録をお届けします！

text_hagiwara



▲中締め前に参加者全員で記念撮影！

2012年の忘年会も、登録有形文化財、鳳明館本館にて行われました。西村先生による乾杯の音頭で宴会がスタート。途中、「今年の一枚」スピーチで、研究室メンバーがそれぞれの2012年を振り返り、忘年会恒例のジャンケン大会が行われるなど、総勢75名が集まる盛会となりました。中締め前の先生からのお話では、窪田先生から「自分のすべきことに邁進せよ」というお言葉を頂き、2012年の終わりに今後の人生を考える機会となりました。その後は、深夜0時を回ったあとまだまだ喋り足りないメンバーが毛布にくるまりながら、明け方近くまで語っていました。

忘年会の一幕



▲毎年恒例！じゃんけん大会



▲演説中の窪田先生



▲みんなぐっつりのAM4時頃

西村 幸夫 教授 「感性を磨いて、外の世界を見よう」

忘年会演説録



今年一年で国内外の色々な街に行き、その街のことが好きになりましたが、私にとってこれまでの常識を覆されたのは、ブータンという国です。実は北沢先生が研究室に来た時、ブータンの調査に研究室としても参加することになったのですが、私は残念ながら時間が取れず、去年が初めて行く機会となりました。本当に貧しい国で、食べるものもないですが、我々の常識では考えられないことがあります。例えば、お寺は同時に県庁になっていて、政教分離とかは一切なく、チベット仏教の一つの宗派が逃げてきて造った国なので、宗教と政治は全く同じです。お寺に住むお坊さんの数も、集まるお金も増えていて、彼らはお寺がどんどん立派になっていくのは authenticity なんですかと困っていると言います。そんな話は我々にはありません。

ティンブーという街には唯一立派な目抜き通りが

あって、この国唯一信号があります。全てのビルが4階以下、ブータン様式でないとならず、一個一個の建物がすごく立派です。それで、ある意味すごく豊かです。教育はすべて無料で、優秀な人は海外留学もできて国語以外は英語で行われています。医療費も全部タダ。こんな貧しい国でなんでそんなお金が出るのかと聞くと、全部外国からの援助だと（笑）。さらに、山のどこでも携帯がつながるんです。この国では、情報へのアクセスと医療と教育が国中どこでも同じように受けられるのが、平等な世界だと言って、それが出来上がっています。貧しく小さな国ですが、基本的なヒューマンニーズを全部満たされ、みんなハッピーなわけです。欧州の隔絶したような国ならこういうことはあるかなと思いますが、アジアにこんな国がある。そして神聖なので海外の人も含め、山に登るのは禁止されているし、トンネルも禁止。海外の人が来ると困るので、一日120ドルくらい払わないとビザが下りない。全く、普通のアジアの国と違うことをやっています。それでも都市ができていて、住んでいる人がハッピーで、自信を持っています。ネパールなどは、外貨を稼いで立派になってますが、ここは、違う道で行っている。全く我々の常識とは違う世界があって、これはある意味アジアの希望の星です。

そういうのを見ないと、自分たちの立ち位置はわからない。こういうのを見て初めて私達が考えているの

は唯一の価値観ではなく、違うものがあると気づく。外を見るというのは、自分を振り返ることで、自分を相対化して、自分の立ち位置が見えると、到達しないといけない山の高さもわかるし、どんな努力をしないと行けないかもわかるから、日々無駄ができないと真面目になるんです。そのために私は外を見るんです。ちょっとした小さな街でも田舎でも、自分がそういう感性を持って見る。そういう感性、想像力を持っていないとどこに行っても同じなんです。自分の感性をいかにバランスを取って磨いて、外の世界に反応できるかということにかかっています。ブータンを見て、本当に感激し、この街はアジア全体にとって大事だと思いました。「感性を磨いてください」これを今年の締めの言葉にしたいと思います。



▲首都ティンブーの街並み

好評連載

"留学生コーナー 第21弾!"

An Essay by International Student Vol.21

第21弾の今回は、マレーシア出身の留学生、Lee Yoke Laiさんから日本の都市の姿を伝えてもらいます。今号では、その前編をお届けします！

My favorite town in Tokyo, Ameyoko

D1 Lee Yoke Lai

There are many shopping streets, high-end shopping malls with differences specialties and theme can be traced in Tokyo Metropolitan. One of my favorite shopping streets that I have visited was Ameyoko open market street which is located close to the Ueno train station and Ueno Park.

One thing I like about this place because of the robustness street activities and the character of the old market street preserve in a modern context. People conducted many street activities and cultural experiences for instances market trader shouting about their wares, merchandise sold, shopping, bargaining, eating, chatting, people watching, gathering, meeting friend all occurred along the stretch of Ameyoko's narrow street. Consequently, I described the lively ambience of Ameyoko Market Street resembled as charming 'theatrical street'. Likewise, the traders and patronizes are performed as 'actors' while the formal and informal physical setting (e.g.: Vendors, streetscape, building frontage), cultural cohesion and social-economic entities supported as the theatre props to Ameyoko market.

Undeniably, the determinants of scenic street landscape and

the busiest market street have turned into a place that people recognizable, a meaningful and memorable destination. In other words, the strong sense of social attachment and street character has prolonged the identity of Ameyoko as the distinctive urban space that preserved in society.



▲ Ameyoko Street (アメ屋横丁)

社会化見学部

江戸・東京を支える水の道

The water supply supporting Edo and Tokyo

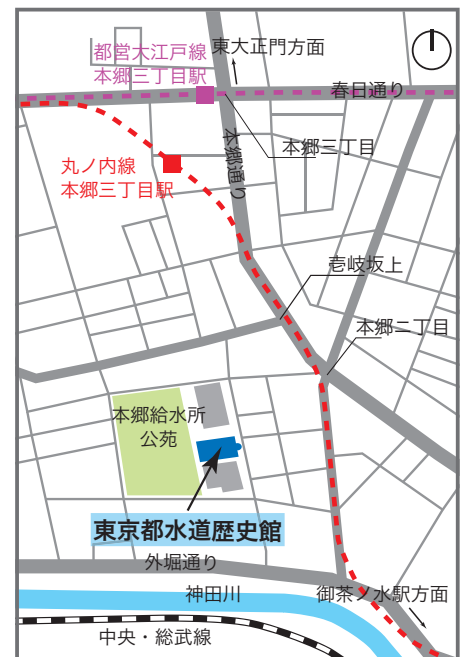
2012年12月19日に都市デザイン研マガジン編集部M1一同で本郷にある東京都水道博物館へ見学に。社会科見学部、久々の復活です！

text_koshimura

今回の見学場所は本郷三丁目の交差点から徒歩6分。隣には本郷給水所もあり、水道の重要拠点が中高層ビルの並ぶ街の中にあるとはちょっとした驚きでした。東京都水道歴史館では江戸-東京を支えてきた水の道400年の歴史が紹介されています。江戸の地下に張り巡らされた木樋や、多摩川から江戸へ緩勾配で水を引いた玉川上水など、当時の水利技術の高さに感心すると共に、近現代には震災や戦争、渇水など幾多の困難を乗り越え東京の水道が成長してきたことを学びました。

見学後に受付で「東京水」を試飲させていただきましたが、ほんの少し甘みがありました。同じ「東京水」でも浄水場により取水先が異なり微妙に味が違うそうです。高度な技術によって蛇口を捻ると水が出ることは今や当たり前になっていますが、その水がそれぞれの川、水源の山から来ているということを強く意識させられました。ちなみに、受付のお姉さんのおすすめは多摩川の水を取水している東村山浄水場の水だそうです！

周辺MAP



▲東京都水道歴史館入口にて



▲一番太い導水管は約3mもの太さになるそうです

✦ 編集後記

萩原 拓也

皆様、新年あけましておめでとうございます。私事ではございますが、2013年は年男であり、厄年でもあるという大サービス状態です。新年早々、厄年らしく風邪をこじらせながら、伝統的な炬燵&ミカンスタイルで新春恒例の箱根駅伝を見ていたときに、ふと「ああこの子たちはみんな自分より年下なのか」と思った瞬間に、なぜかきゅっと身が引き締まる思いがすると同時に、ほんのりミカンが酸っぱく感じました。本年も都市デザイン研究室マガジンをよろしく願います！

1月の予定

Information

- 1月11日 第15回研究室会議
- 1月15日 第16回研究室会議
- 1月16日 第17回研究室会議
- 1月29日 修士論文提出締切
- 1月30日 清水建設新本社ビル見学会